

# 民報 あばしり

NO.850

2012.1.15

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八四三  
四四三・四四五八  
F四三・四四五七



## 今年も元旦から街頭宣伝

日本共産党網走市議団は、元旦の午前10時から街頭宣伝を市内数ヶ所で行いました。今年も天候に恵まれ爽やかな晴れ模様の中で宣伝となりました。

飯田敏勝、松浦敏司の両議員は、昨年の東日本大震災や福島第1原発事故で大変な年だったこと、市議選のお礼を述べました。

また、民主党政権に交代して2年半になるが、政治は変わったのだろうかという問いかけ、現在の野田内閣は、アメリカと財界の言いなりで、TPP問題や社会保障は後退させ消費税は増税など国民イジメの政治で自民党と何も変わらない。次の総選挙では、日本共産党の躍進で国民の暮らしも平和も守られるようにしようとうと訴えました。

そして、日本共産党網走市議団は、今年も市民の声を議会に反映させるため全力を尽くすと誓い、引き続き支援を呼びかけました。



## 成人おめでとう！



網走市の成人式が、1月8日午後1時からエコセンターで行われました。今年の網走市の新成人は、男性284人、女性204人の合計488人で、式典に参加したのは302人でした。前日まで荒れ模様でしたが、この日は、新成人を祝うかのよう晴れに恵まれ、スーツや紋付袴、振り袖姿が、一段と華やかに見え何とも言えない初々しい晴れ姿でした。

新成人は、久しぶりに同級生や友人と会い歓声が沸いていました。思い思いの場所でケイタイで記念写真を撮り合うなど、再会と成人を喜び合っていました。

この日、日本共産党や新日本婦人の会や網走原水協が「成人おめでとう」と声をかけて、ピラや核兵器廃絶と原発反対の署名活動を行いました。

## 敏勝 東奔西走

公約破りの消費税増税に対し、全国紙5紙は新年の紙面で野田内閣へ一刻も早い消費税増税を促す社説で足並みをそろえています。「愚をこれ以上繰り返すな、成熟社会の基盤確立のため増税や政府支出のカットはつらいが国民は甘受せよ」(朝日)、「党内はもとより国民を渾身の力で説得せよ」(読売)「消費税増税改革の必要性は何度も訴えてきた」(毎日)等々、もつと急げとけしかけているのが正月論調の特徴です。だからこそ、野田首相は年頭記者会見で「ネバー、ネバー、ネバー、ネバーギブアップ(決してあきらめない)」と消費税増税で正面突破する固い決意を示したのも大手メディアの後押しがあるためです。

彼らが財源不足↓社会保障破綻↓消費税増税不可欠の政府レールにまるまる乗っている。しかし、大企業・大資産家への減税圧縮や応分負担を求めること、歳出の浪費についてはは触れていない。その一方で、消費税増税を認めたらうえで、新聞については例外的に税率軽減の適用を求めています。この身勝手さには、「社会の木鐸(ぼくたく)」といわれてきた新聞ジャーナリズムの姿は無い。

## 松浦 奮戦メモ

年末の27日午前11時ころ、網走市の上空を爆音が轟きました。

私は、川向の党の事務所に来客中でしたが、「旅客機の低空飛行には随分音が高いな」と話していました。翌日、それが自衛隊のF15戦闘機だと地元新聞を見て驚きました。

市民からも事務所付近に「ものすごい爆音に驚いたが、その原因が自衛隊の戦闘機とは何ごとか、恐ろしさを感じた」、しっかりと調べてほしいというものでした。早速、市の総務課に行つて自衛隊から事前に通知があったのかと聞くと何もなかった。何の目的で行つたのかを聞くことと調査をして連絡することでした。その後の連絡では、自衛隊としては「通常の訓練である」とのことでした。訓練ということからも目的を持ってやったことですから、何を想定して行ったのか、そこが問題だと思っています。

今、党北海道委員会や安保破壊実行委員会と連絡を取り調査をしています。自治体に通知なしというのも問題だし、物騒な行動はやめるべきです。

## 流水

新しい年も早二週間になります。新年ともなれば、何かしら心弾ませ希望の一つや二つ、できぬ決意もしようと思ったりしてきました。今年はやはりそんな気持ちにはなれません。

東日本大震災、原発事故、放射能汚染、私たちの生活すべてを揺るがす国家的危機に直面しているのに、全く頼りにならない政府。日本の未来について何のビジョンも示す事ができない二大政党の有様は、国民にとって不幸としか言いようがありません。こんな時代だから、国民の不安が満タンになっているからでしょうか、大阪のダブル選挙では、橋下元知事率いる大阪維新の会が圧勝しました。橋下市長の「既存の制度を批判し、ぶっ壊す」という主張は、ライオンヘアーのあの人そっくり、「米百俵」だとか言われて騙され、私たちは今耐えきれない苦しみにさらされています。それでも、国民の不安や不満が強ければ強いほど同じトリックに何度でも引かかってしまうという事でしょうか。1933年、あのヒットラーは、二度の総選挙で首相になりました。「独裁も必要だ！」と言い切る橋下市長の言葉を、「言葉の綾」とらえて流せない怖さがあります。▼「専制や独裁」に対峙している「民主主義」、この民主主義を民主主義たらしめるために何が大切か、日本国憲法の中に答えがありました。「国民に保障する自由と権利は、国民の不断の努力によってこれを保持しなければならない」と。(C)